

教育委員会事務局

平成29年度重点目標

- 1 「上田市教育支援プラン」の推進
- 2 学校施設のあり方の検討と計画的な改築・改修による教育環境の整備
- 3 文化遺産の継承・活用
- 4 生涯学習の推進による地域の教育力の醸成
- 5 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備

平成29年度 重点目標管理シート

重点目標	「上田市教育支援プラン」の推進			部局名	教育委員会事務局	優先順位	1位
総合計画における位置付け	第5編教育 第1章次代を担う人づくり 第1節教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略 4結婚・子育てしたい戦略 施策体系 ②きめ細やかな出産・子育て支援推進 ③未来に繋がる特色ある教育の推進		2014市長マニフェスト における位置付け	I-3-⑤	
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け							
現況・課題	多様で変化の激しい社会の中で子どもたちが将来自立していくためには、「自ら学び、考え、行動する力」を身につけることが重要です。また、学校には発達や身体などに障がいのある児童生徒が在籍しており、特別支援教育を着実に進めていく必要があります。 核家族化や少子化の進展などにより子どもを取り巻く環境が大きく変化している中、学校、地域、家庭が連携し、子どもの教育に多くの人が携わり、地域ぐるみの教育を行うことが必要です。 学校給食に関しては、27年度に決定した「今後の学校給食運営方針」に基づき、施設の整備計画及び運用方法を検討する必要があります。						
目的・効果	平成28年度からスタートした第2期上田市教育支援プランでは、「上田市教育大綱」の基本理念「燦(さん)と輝く上田の未来を紡(つむ)ぐ人づくり」に込められた思いを受け、確かな学力を養うこと、グローバルな能力を培うこと、ふるさと上田に学ぶことの3つの基本目標を掲げ、急速な人口減少や社会のグローバル化、地方創生への戦略化など大きな時代の転換点を迎える中で、将来の主役となる今の子どもたちを育てていくために、6つの基本施策と14の支援策を掲げ施策を推進します。						
	取組項目及び方法・手段(何をどのように)	期間・期限(いつ・いつまでに)	数値目標(どの水準まで)	中間報告(目標に対する進捗状況・進捗度)	期末報告(目標に対する達成状況・達成度)		
①	○学力の定着・向上 (1)学習習慣を身に付ける家庭学習の充実 生活・学習ノート「紡ぐ」の平成30年度からの全小中学校活用に向けた、試行と検証 (2)小中学校が連携した授業の展開 中学校数学専科教員の小学校への派遣	(1)4月～3月 (2)4月～3月	(1)小学校5校、中学校3校の試行状況を学力向上委員会で検証し、平成30年度からの全小中学校での活用を目指す。 (2)中学校数学専科教員4人を中学校区内の小学校に派遣し、算数の授業を行う。	(1)・小学校5校、中学校3校で試行実施(4月～) ・全小中学校から意見聴取(8月～9月) ・学力向上委員会小委員会で検証(9月～) (2)中学校4校の数学科教員を中学校区内の小学校に派遣し、算数の授業を行う。教員を派遣する中学校に市費非常勤講師を雇用し配置する。	(1)・小学校5校、中学校3校で試行実施(4月～) ・全小中学校から意見聴取(8月～9月) ・学力向上委員会小委員会で検証(9月～11月) ・市校長会で報告、了承(11月) ・来年度からの全校実施に向け印刷経費を予算化 (2)中学校4校の数学科教員を中学校区内の小学校に派遣し算数の授業を行う。「算数が好き」と答える児童が年度当初比増加する。(4月調査66.4%→10月調査70.2%)		
②	○英語教科化への対応とコミュニケーション能力の充実 (1)上田市英語教育推進計画の策定	(1)4月～3月	(1)次期学習指導要領の詳細が判明次第、上田市校長会及び小学校英語教科化推進委員会にて協議し、本年度中の策定を目指す。	(1)・小学校英語教科化推進委員会の開催(6月～) ・平成30年度からの小学校英語教科化先行実施に向けて教職員向け研修会開催、公開授業の実施(7月～) ・小学校英語教科化に併せ推進計画を策定中	(1)・小学校英語教科化推進委員会の開催(6月～) ・平成30年度からの小学校英語教科化先行実施に向けて教職員向け研修会開催、公開授業の実施(7月～) ・小学校英語教科化を推進するため、授業カリキュラム、指導事例の作成、ALT配置の見直し、学校配当経費の予算化を行う。		
③	○特別な支援を要する児童生徒への支援 (1)特別支援学級へのタブレットパソコンの導入	(1)4月～3月	(1)小学校8校、中学校4校の特別支援学級にタブレットパソコンを導入する。	(1)小学校8校、及び中学校4校の特別支援学級にタブレットパソコン70台と無線LAN環境の整備を完了し、2学期から使用を開始した。	(1)2学期に未整備の小学校6校、中学校4校へタブレットパソコン47台、無線LANを追加整備。 本年度は合計117台のタブレットパソコンを整備した。 (2)市内全小中学校の特別支援学級への導入が完了した。 (3)機器導入時に基本的操作研修を行い、その後は各学校の要請に応じて、ICT支援員などによる研修を実施した。		
④	○食育の推進・充実に向けた環境の整備 (1)学校給食施設の整備に向けた検討	(1)4月～3月	(1)内部検討組織において、施設及び運用方法について検討を進める。	(1)学校給食検討会議を設置 ・検討会議を2回、部会を3回開催	(1)学校給食検討会議等(計12回)において、食物アレルギー対応、地産地消の推進に係る検討、先進事例を参考とした施設のレイアウト研究などを行った。 また、新しい給食センターの建設候補地について、インフラの整備状況等を調査し、候補地の絞り込みを進めた。		
⑤	○放課後児童対策の充実 (1)放課後児童支援員等の処遇改善の継続	(1)4月～3月	(1)国県の補助金を活用し、放課後児童支援員等の処遇改善(給料の増額)を実施する。	(1)12月の変更契約締結に向け、処遇改善額を決定するため、指定管理者ごとに職員名簿を提出させた。	(1)12月に変更契約を締結し、処遇改善額を指定管理料に上乗せして支払を行った。(支給額合計4,417,700円)		
⑥	○小中学校のあり方の検討 (1)「上田市小中学校のあり方研究懇話会」の設置による、あり方の基本方針に係る方向性の研究	(1)4月～3月	(1)懇話会の開催(年4回程度) (2)必要に応じて市内小中学校や先進地の視察を実施	(1)7月に「小中学校のあり方研究懇話会」を設置し、7月27日に第1回懇話会を開催した。第2回懇話会は10月31日開催予定。 (2)先進地視察について、日程、視察先の選定等を調整中。	(1)小中学校のあり方研究懇話会を計4回開催するとともに、懇話会の議論を踏まえ、次年度以降の検討の柱について提言を受けた。(第1回:7月、第2回:10月、第3回:1月、第4回:3月) なお、第3回懇話会では、筑波大学教授樋口直宏氏の講演・意見交換を行った。 (2)2月に教育委員による先進自治体の視察を実施した。(栃木県小山市・茨城県つくば市)		
特記事項				○取組による効果・残された課題			
	○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点						

平成29年度 重点目標管理シート

重点目標	学校施設のあり方の検討と計画的な改築・改修による教育環境の整備			部局名	教育委員会事務局	優先順位	2位
総合計画における位置付け	第5編 教育 第1章 次代を担う人づくり 第1節 教育環境の整備と地域ぐるみの教育推進	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略 施策体系	2014市長マニフェスト における位置付け	I-3-⑤		
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け							
現況・課題	これまで実施してきた学校施設の耐震化事業については、平成28年度末ですべての耐震化が完了しましたが、昭和40年代以前に建てられた学校施設が全体の半数近くを占め、これらの施設が近い将来耐用年数を迎えることになりま す。子どもたちの安全な教育環境を確保するためには、今後においても引き続き計画的な施設の改修・改築が必要です。 学校施設の改修・改築に当たっては、今後、明らかに減少する児童生徒数を鑑み、公共施設マネジメント基本方針の考えの下、適正規模・適正配置の検討を行う中で計画を策定する必要があります。						
目的・効果	日常的な施設営繕、並びに計画的な施設改修・改築を実施することにより、子供たちが安全に安心して過ごせる教育環境を整備することができるとともに、災害時の避難場所としても利用できる環境が整います。 また、老朽化した施設の営繕・改修を行うことにより、施設・設備面での学校間格差の解消にもつながります。						
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限 (いつ・いつまでに)	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
①	○学校施設のあり方の検討	3月	学校施設の適正規模・適正配置の 検討の基礎となる学校施設管理台帳 の作成 (小学校25校、中学校11校)	7月までに、各学校の主な校舎ごとに施設管理台帳様式を作成し、8月以降、過去の営繕等改修履歴を入力開始。 年度内の入力完了を目指す。	各学校の主な校舎ごとに作成する施設管理台帳「学校施設カルテ」を作成し、年度末までに、構造、面積、建築年度、過去5箇年の営繕履歴等を入力し、基礎データが完成した。		
②	○小中学校施設の計画的な改築・改修 (1)川西小学校改築事業 (プール改築Ⅰ期[繰越]・Ⅱ期、外構工事 [繰越]) (2)本原小学校改築事業 (外構整備) (3)第三中学校改築事業 (仮設校舎解体、プール改築Ⅰ期、外構整備) (4)第四中学校改築事業 (プール改築Ⅰ期[繰越]・Ⅱ期、外構整備) (5)小学校トイレの男女別化 (北・神科・南小低学年用トイレ4箇所[繰越])	(1) 3月 (2) 10月 (3) 3月 (4) 3月 (5) 10月	左記に掲げる目標期限までに、各 種工事等を竣工し、供用を開始す る。	(1) プール改築事業については、6月に竣工し供用を開始した。外構工事については、年内に竣工予定。 (2) 外構整備工事については、7月に契約を締結し、10月中旬に竣工予定。 (3) 校舎・プール解体工事については、8月に契約を締結した。外構整備、プール改築については、10月以降契約の見込。 (4) プール改築事業については、6月に竣工し供用を開始した。外構工事については、7月に契約し、年度内に竣工予定。 (5) すべての小学校において、予定どおり工事が進捗し、10月中旬に竣工・供用開始予定。	(1) プール改築事業については、6月に竣工し供用を開始した。外構工事については、11月に竣工し供用を開始した。 (2) 外構整備工事については、10月中旬に竣工予定であったが、増工・工期延長に伴い1月に竣工した。 (3) 校舎・プール解体工事については、旧体育館の解体中、アスベストが発見され、除去工事の影響により2月に竣工した。外構整備は10月に契約したが、プール改築については、解体工事の延長に伴い2月の契約となったため、一部工事をH30年度に繰り越して実施する。 (4) プール改築事業については、6月に竣工し供用を開始した。外構工事については、4月に竣工した。 (5) すべての小学校において、予定どおり工事が進捗し、10月中旬に竣工・供用開始した。		
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題			
	○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点			・小中学校施設の計画的な改築・改修については、昭和30年代後半から昭和50年代にかけて建設された校舎等が数多くあり、今後、老朽化に伴う改築がピークを迎えるため、学校施設のあり方の検討の中で、将来的な児童・生徒数の予測やこれからの教育のあり方を踏まえ、施設の適正規模・適正配置の基本的な考え方を作成した上で、今後も計画的に学校施設の改築を行う必要がある。			

重点目標	文化遺産の継承・活用			部局名	教育委員会事務局	優先順位	3位
総合計画における 位置付け	第6編 文化・交流・連携 第1章 多彩な文化芸術の継承と創造 第1節 文化遺産の継承と活用	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略 3訪れたい・住みたいうえだ戦略 施策体系 ①地域資源を生かした知名度アップと交流促進	2014市長マニフェスト における位置付け	I-1-①		
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け							
現況・課題	地域の歴史と文化を世代を超えて継承するために、文化財への関心を高め、それらの保護と活用を推進する必要があります。また、身近な伝統芸能の後継者育成を支援し、史跡等の整備を推進して文化的価値を高めてより魅力あるものにしていくことが求められています。						
目的・効果	市内の文化財を総合的に保存・活用するため、「上田市歴史文化基本構想」策定事業を継続して進めます。また、国史跡上田城跡・信濃国分寺跡の整備の推進、県宝旧倉沢家住宅の修理及び旧千曲会館保存修理補助事業等を実施することにより、歴史的・文化的な遺産の継承を図ります。さらに、文化遺産の積極的な公開と事業実施により、それらの利活用を促します。						
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
① ○史跡等整備推進と文化財の保護と活用 (1)文化財の調査と指定 (2)史跡上田城跡復元整備事業 (3)史跡信濃国分寺整備事業 (4)埋蔵文化財保護事業 (5)市内文化財の保存・活用	(1)4月～3月 (2)4月～3月 (3)4月～3月 (4)4月～3月 (5)4月～3月	(1)文化財保護審議会の開催（1回以上）と指定候補文化財の調査及び指定 (2)史跡上田城跡整備実施計画検討委員会（2回）、発掘調査跡（真田神社社務所跡・11月）及び近年の発掘調査に係る報告書の作成 (3)近年の発掘調査に係る報告書の作成 (4)手筒山遺跡の発掘調査（5～7月）、開発事業に伴う事前調査（随時） (5)・旧千曲会館ほかの修繕等補助 ・無形文化財継承団体補助（16団体） ・文化財de文化祭事業（文化財学習と文化財を活用した文化事業）の実施（10月） ・文化財のデジタル保存と活用	(1)文化財保護審議会の開催（12月開催予定）と指定候補文化財の調査（1件） (2)史跡上田城跡整備実施計画検討委員会（2月開催予定）、近年の発掘調査に係る報告書の作成（進捗度50%） (3)近年の発掘調査に係る報告書の作成（進捗度50%） (4)手筒山遺跡の発掘調査（現場作業終了、発掘調査報告書の作成 進捗度60%）、開発事業に伴う事前調査（随時） (5)・旧千曲会館ほかの修繕等補助（交付決定済） ・無形文化財継承団体補助（交付決定済） ・文化財de文化祭事業（文化財学習と文化財を活用した文化事業）の実施（11月実施に向け準備中）	(1)文化財保護審議会を12月14日に開催。文化財調査3件 (2)史跡上田城跡整備実施計画検討委員会を3月12日に開催。上田城跡の発掘調査報告書を刊行 (3)信濃国分寺跡の発掘調査報告書を刊行。大型説明版3基を設置。 平成30年度公有化予定物件の測量・補償物調査を実施 (4)手筒山遺跡発掘調査報告書を刊行 開発事業に伴う立会調査132件、試掘調査2件を実施 (5)・旧倉沢家住宅文庫蔵保存修理工事を実施 ・旧千曲会館、保野祇園祭、科野大宮社の修繕等補助金を交付 ・コミュニティ助成事業補助金（柳沢自治会）を交付 ・無形民俗文化財継承団体補助金を交付（16団体） ・文化de文化祭事業を11月26日に旧宣教師館（市指定文化財・下之郷）で昼夜2回開催（群響メンバーによるアンサンブルの演奏会及び文化財見学会・参加者50人）			
② ○郷土の文化・歴史、偉人の業績等を知る機会の創出 (1)郷土の文化・歴史や偉人の業績をテーマとした特別展及び講座の開催 (2)郷土の文化・歴史に係る資料の調査研究	(1)4月～3月 (2)4月～3月	(1)博物館・資料館企画展の開催（4）、体験教室・講座の開催（30回）、公民館・図書館講座の開催（各1回以上） (2)史跡や遺構等の現地調査、古文書・遺物等の資料調査（通年）	(1)企画展の開催、講座等の開催（博物館） 特別企画展「真田信繁と真田家の絆」、企画展「上田城下町 川の謎」実施済、博物館講座、古文書講座実施中 (2)企画展の開催、講座等の開催（資料館） 春季企画展実施済、秋季企画展実施中、親子de縄文体験塾実施済、学校出張歴史体験教室実施済、市民講座及び資料館講座実施中、奈良時代を学ぶ会実施中	(1)博物館：企画展4回、史跡めぐり4回、博物館講座等11回を開催 資料館：企画展3回、「親子de縄文体験塾」3回、「学校出張歴史体験教室」10校、「市民講座」3回、「奈良時代を学ぶ会」9回、「万葉講座」3回、「資料館講座」8回を開催 (2)博物館所蔵資料の整理、調査研究を実施			
③ ○「上田市歴史文化基本構想」の策定事業（平成28～30年度） (1)上田市歴史文化基本構想策定委員会の開催（2回） (2)文化財の現地調査及び調査カードの作成	(1)9月・3月 (2)4月～3月	(1)上田市歴史文化基本構想策定委員会の開催（2回） (2)市内文化財（古民家・仏像など）の調査及び調査カードの作成	(1)上田市歴史文化基本構想策定委員会の開催（12月開催に向け準備中） (2)市内文化財（古民家・仏像など）の調査及び調査カードの作成 古民家調査 進捗度60%・仏像調査 進捗度65%	(1)「上田市歴史文化基本構想策定委員会」を設置。12月14日、3月7日に策定委員会を開催 (2)市内文化財の調査及び調査カードの作成 古民家90件、仏像140件を調査（全体の進捗率75%）			
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点						
	○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点						

重点目標	生涯学習の推進による地域の教育力の醸成		部局名	教育委員会事務局	優先順位	4位
総合計画における位置付け	第5編 教育 第1章 次代を担う人づくり 第2章 新しい時代を拓く生涯学習環境の整備 第1節 教育環境の整備と地域ぐるみの教育 第1節 生涯学習の推進と学習環境の整備 第1編 自治・協働・行政 第2章 すべての人の人権が尊重されるまちづくり 第1節 一人ひとりの人権が尊重される社会の実現		まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略 2結婚・子育てしたい戦略 施策体系 ③未来につながる特色ある教育の推進	2014市長マニフェストにおける位置付け	I-2-② I-3-⑤
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け						
現況・課題	社会教育機関である公民館や図書館を中心に、地域の教育力を高める取組を進めてきたが、それらの成果を地域課題の解決や学校支援に生かしていくための方策を進めるとともに、市民の自発的な生涯学習活動及び住民自治の更なる充実を図るため、社会教育施設の計画的な整備を進める必要があります。 全小中学校で信州型コミュニティスクールの取組が行われていますが、今後は学校の実情や地域の特徴を生かしながら、地域が学校を支援する取組が継続した取組となるよう、持続可能な体制を整備していく必要があります。コーディネーターの全体の人数や、地域の方に担っていただいている人数は徐々に増えてきています。今後は、コーディネーターやボランティア同士を繋ぐ「統括コーディネーター」の存在が重要になります。人権同和教育においては、平成25年2月に同和問題に関わる差別事象が発生し、その後も相談案件が生じていることから、今後、このような差別が起きないように人権同和教育と啓発を推進していく必要があります。					
目的・効果	豊かな生涯学習社会の実現を目指し、新たに策定した「第二次上田市生涯学習基本構想」に基づき、生涯学習機会や施設整備をはじめとする生涯学習環境の充実を図るとともに、地域と連携した学校を支援する取組を通じ、学校の負担を軽減し、地域ぐるみで子どもたちを育てていきます。 上田市人権施策基本方針に基づき、学校、地域等における人権同和教育と啓発を通じ、すべての人の人権が尊重される社会の実現を目指します。					
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○社会教育施設の計画的な整備 (1)西部公民館の建替推進 (2)神川地区拠点施設（保育園・公民館）の整備促進 (3)上田図書館の整備に向けた検討	(1)4月～3月 (2)4月～3月 (3)4月～3月	(1)外構等の施設整備を進める。 (2)神川地区拠点施設整備については、建設用地の造成を行い、複合施設の建設を行う。 (3)上田市の図書館施設の配置やあり方、役割分担も含め「上田市図書館基本構想」を策定する。	(1)西部公民館外構工事は、年度内の竣工に向け、工事を進めている。6月に上田市民館条例の一部改正をし、8月1日から新館で業務を開始した。 (2)神川地区拠点施設の整備については、実施設計及び造成工事が計画どおり進んでいる。 (3)第二次上田市図書館基本構想については、社会教育委員会で3回会議をし、9月にパブリックコメントを行った。	(1)西部公民館は外構工事の終了で年度内の竣工を向かえ、一連の建替事業を完了した。 (2)神川地区拠点施設の整備については、造成工事を終え、建物については、平成29年12月に着工した。 (3)第二次上田市図書館基本構想を平成30年2月に策定した。	
②	○地域と連携した学校を支援する取組の充実 (1)地域が学校を支援する取組（信州型コミュニティスクール）の周知、広報 (2)統括コーディネーターの配置及びコーディネーターの育成 (3)統括コーディネーターによる、ボランティア、コーディネーターのネットワーク作り	(1)4月～3月 (2)4月～3月 (3)4月～3月	(1)コーディネーター用のマニュアルを作成する。 周知チラシを配布する。 (2)統括コーディネーターを配置する。 研修会等を開催する（5回）。 ボランティア保険に加入する。 (3)統括コーディネーターが中心となり、他の学校のコーディネーターや地域の方と情報交換を行う。	(1)マニュアルは素案を作成し、12月発行予定。 チラシは、20,000枚を作成し、自治会に回覧したほか市内全児童生徒の保護者、公民館等に配布した。 (2)4月に統括コーディネーター配置した。 研修会は、視察も含めて現在企画中。 ボランティア保険に随時加入。 (9月30日現在、1,201人加入済み) (3)情報交換会は10月17日の開催に向けて調整中。	(1)・学校教育課、公民館、生涯学習・文化財課で構成する「学校支援プロジェクト」会議を5回開催。（研修部会2回、広報部会2回、合同会議1回）ボランティア用ガイドブックを2,000部作成し、3月に配布した。 ・周知用チラシを作成し、自治会、保護者等へ回覧・配布した。 ・広報うえだに学校支援に関する記事を掲載し、地域の方に周知を図った。 (2)・統括コーディネーター1名を生涯学習・文化財課に配置した。 ・市内全小中学校を訪問し、学校の現状と課題を聞き取った。 ・研修会等を5回実施。先進地視察を実施した（上田市）。 ・ボランティア保険に加入した（2月28日現在：1,305人） (3)情報交換会を2回開催し、ネットワーク作りを進めた（10月17日、3月8日）。	
③	○人権同和教育・啓発の推進 (1)上田市人権施策基本方針に基づく人権同和教育の推進 (2)人権同和教育に関する講演会・研修会の実施	(1)4月～3月 (2)4月～3月	(1)人権施策基本方針に基づいて、学校、家庭、地域、企業、職員に対する人権同和教育・啓発を推進する。 (2)市民一人ひとりの人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に現れるよう研修会等（数値目標参加者36,500人）を開催し、市民の人権意識の更なる向上を図る。	(1)市内小中学校、PTA、自治会、企業等において、様々な機会を捉え人権教育・啓発を進めている。 (2)学校、地域、企業等で講演会や研修会を、合計約320回開催し、延べ10,600人が参加した。	(1)市内のほぼすべての自治会で人権同和教育懇談会を開催、小中学校では授業での人権教育と教職員の指導力を高める研修会を複数回開催した。 (2)学校、地域、団体、企業等全体で、講演会や研修会を820回開催、延べ37,500人が参加し、市民の人権意識の更なる向上を図った。	
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題		
	○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点					

重点目標	生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備			部局名	教育委員会事務局	優先順位	5位
総合計画における位置付け	第5編 教育 第2章 新しい時代を拓く生涯学習環境の整備 第2節 生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備	まち・ひと・しごと創生総合戦略における位置付け	戦略 施策体系	2014市長マニフェスト における位置付け		I-2-③	
第三次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け							
スポーツ施設整備を進めるにあたり、公共施設マネジメント基本方針と整合を図り、今後の方向性・方針等を検討する。							
現況・課題	車社会や高度情報化社会により生活を便利にする一方で、体を動かす機会の減少、地域コミュニティが希薄化しているなか、だれもが、生涯にわたりスポーツを通じた健康づくりのため、「上田市スポーツ振興計画」に基づき、多様化したニーズに対して計画的に取り組む必要があります。						
目的・効果	「上田市スポーツ振興計画」及び「上田市教育支援プラン」に基づき、だれもが体力向上や健康づくりの機会を拡大し、生涯にわたり気軽にスポーツ活動へ参加できるよう環境の整備を図ります。						
取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
① ○スポーツ施設整備の推進 (1) スポーツ施設建築物の長寿命化計画調書の作成 (2) スポーツ施設整備計画の検討	(1) 平成30年2月まで (2) 年度末まで	(1) 主なスポーツ施設の建築物健全度調査を行い、長寿命化計画調書を作成する。 (2) 長寿命化計画調書を作成するとともに各施設の利用状況等を検証し、施設整備計画を検討する。	国が示す「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン（案）」や「インフラ長寿命化基本計画」に基づき、スポーツ施設の個別施設整備計画策定に向け、施設の現況評価や個別施設計画の検討など、業者委託支援事業を発注した。併せて、主要建築物の大規模改修実績を調査し、個別施設台帳の作成に着手した。	(1) スポーツ施設建築物長寿命化計画を含めた形でスポーツ施設整備計画を策定することとした。 (2) スポーツ施設整備計画策定に当たっては、スポーツ推進審議会に諮問し、国の示したガイドラインに基づく現況評価や関係団体（市内各地域協議会、上田市体育協会等）からの意見を踏まえた答申案がまとめられた。			
② ○市民のスポーツへの関心や参加意欲の促進及び生涯スポーツ社会実現のための施策 (1) スポーツに関する情報発信 (2) 競技力の向上 (3) だれもが気軽にスポーツに親しむ機会拡大 (4) スポーツを通じた姉妹都市・友好都市との交流	平成29年度中随時	(1) 広報うえだ等の情報誌により事業内容の周知（30回） (2) 全国大会等の出場者支援（30件） (3) こころのプロジェクト「夢の教室」実施 (4) 国内1回、国外1回の計2回	(1) 各媒体で事業を周知（広報うえだ38回、HP随時、上田スポーツプレス11回） (2) 全国大会等出場者に対して奨励金（18件）を交付 (3) 「夢の教室」（今年度7校15クラス）のうち2校4クラス実施 (4) 国外友好都市との事業を1回実施（日中友好交流都市中学生卓球交歓大会）	(1) 各媒体で事業を周知（広報うえだ80回、HP随時、上田スポーツプレス30回） (2) 全国大会等出場者に奨励金（27件）を交付、特に成績が優秀な者に市長表彰を授与 (3) こころのプロジェクト「夢の教室」7校15クラス実施 スポーツ教室に健康づくりチャレンジポイント制度適用ラグビー普及に向け体験用具をスポーツ施設に配置 (4) 国内外の姉妹（友好）都市との事業を2回実施 中国寧波市：日中友好交流都市中学生卓球交歓大会 和歌山県九度山町：九度山世界遺産マラソン参加事業			
③ ○総合型地域スポーツクラブの活動支援 (1) 総合型地域スポーツクラブの活動周知 (2) 協働イベント等の開催	平成29年度中随時	(1) 広報うえだ等の情報誌により活動内容の周知（30回） (2) 市内総合型地域スポーツクラブと連携した健康づくりイベントの開催検討	(1) 各媒体で事業を周知（広報うえだ35回、上田スポーツプレス1回） (2) 市内総合型地域スポーツクラブ連絡協議会設立、連携事業を1回実施（第1回あたま・からだ健幸フェア）	(1) 各媒体で事業を周知（広報うえだ60回、上田スポーツプレス3回） (2) 市内4つの総合型地域スポーツクラブの連絡協議会設立、連携事業を1回実施（第1回あたま・からだ健幸フェア）			
○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点	生涯スポーツ社会の実現を共に目指すため、総合型地域スポーツクラブ間の情報共有と事業連携を図るための組織設立を支援するとともに、クラブ間の連携事業の検討を進める。			○取組による効果・残された課題			
○教育行政の事務の点検及び評価を踏まえ反映した点	特記事項			①スポーツ施設整備の推進：審議会の答申を基に整備計画を策定し、同計画に基づく各施設の整備等に着手する。 ②市民のスポーツへの関心や参加意欲の促進及び生涯スポーツ社会実現のための施策：引き続きスポーツに関する情報発信に努め、競技力の向上やスポーツに親しめる機会の拡大を図る。ラグビーワールドカップ開催に向けラグビー競技の普及を図る事業を推進する。 ③総合型地域スポーツクラブの活動支援：今年度は計画のみの予定であった連携事業を実施することができ、クラブの支援と市民の健康づくりの機会創出を図れた。スポーツ振興のため引き続き連携を進めるとともに、今年度発足した連絡協議会の自立に向けた協力を継続する。			